

香葉



1979

NO. 8

目 次

グラビア	1
学長就任によせて	2
長い年月をふりかえって	3
「香報室」	4
覚え書(八)——女専・短大小史	9
コーヨースポットライト(翔んでる心をつかみたい)	12
「展 望」	14
同期会だより——英文科第四回卒	18
五十三年度総会報告	19
香葉会会則新旧対照表	21
評議員氏名	21
合同同窓会報告	22
賛助金をご寄付くださった方への御礼とお願い	23
編 集 後 記	24

表紙……………関 頼 武
カット……………成 川 勝 子
(短国48年度)





正門より2号館をのぞむ



リトリート風景

学長就任によせて

林 淳 三



昨年九月、下田先生のあとを受け

再び学長に就任致しました。前学長の下田先生は立派な学識と人格を具えられ、その上、学院の建学精神を最も理解されている方でした。その後を受けるとなると責任の重さを感じ、勇気づけられ、再び引受けることにしました。

私が先に学長を勤めた期間（昭和四十三年十月～昭和四十九年八月）は、関東学院大学が学生紛争に明け暮れしている時期でした。従って、短大としては学院精神の高揚もさりながら、毎日の授業を守り、経営を維持して行くのに終始していました。ですから、私のような者でも夢中になることで学長が勤められたのでありましょう。しかし、こうした混乱の時に、私は本学の将来を考え、二つの大きな問題に手をつけておきました。

その一つは家政科の専攻分離に伴う栄養士養成課程の設置（昭和四十四年）及び幼児教育科の増設（昭和四十八年）による職業教育を本学に導入したことであり、他の一つは短大校舎の室の木校地（ハンソン山跡）移転計画であります。これらのことは下田前学長に継承して頂き、着々と実を結んで今や本学を卒業した優秀な栄養士保母、幼稚園教諭が県下はもとより、全国に活躍しております。室の木校地には鉄筋五階建の一号館や二号館、鉄筋二階建の五号館

など、次々に整備された美しい校舎や校庭が完成し、従来の体育館三号館を併せて短大のみのキャンパスがつくられました。本年四月から英文科、国文科、家政科、幼児教育科の全学生と一緒に学ぶことができるようになりました。そしてこの四月から短大図書館も三号館の中で独立しました。

このように本学は今や大きく立派になりました。教職員は非常勤講師や臨時職員等を含めると二百名近くになり、また、学生も約千五百名在籍しています。従って全国的にも総合制をとる短大として目立つようになり、本年の入学志願者も三千名を越えました。しかし、一方ではそれが教育や管理を複雑化させています。また、昔のような家族的雰囲気が無くなりつつあり、教員と学生はもろろん学生同志でもなかなか意志が通じにくくなってきました。

こうした時における私の使命は、従来までの大学依存から完全に独立し、教育内容や設備を益々充実すると共に、機構を整備して教職員、学生がともに楽しく学び、勤められるよう配慮して、建学の理想にそった女子の大学にすることでありましょう。それには事務機構を改革して、授業や学生生活に関わる部門を充実し、一方、昔から行われているリトリート等の特色ある行事を継承することも必要であります。また、切角短大だけのキャンパスになったことから、学内はお互が親しみやすいムードにもしたいと考えています。

尚、今後の本学は学生数を余りふやさない予定ですが、校舎や設備は教室棟、事務管理棟、図書館、礼拝堂等のほか、食堂、グラウンド、寮増設等の建築が予想されます。私は在任中、多少なりともこれらの建設に努力し、卒業生の皆さんに恥じない大学にしたいと考えています。よろしくご支援のほどお願いいたします。

長い年月をふりかえって

鳥越ノリ



あたたかい雰囲気の中で、まわりの方々との数えきれないいろいろな御力添え、おはげましに守られまして、定年まで長い年月を、居心地よく、無事に勤めさせて頂きましたことを、心から厚く御礼申し上げます。

この頃、関東に勤めはじめました二四年前からのことを、しみじみとふりかえって居ります。あの樋口のおばさんが打たれる鐘の音で集って行なわれていた毎日の礼拝、それから檜垣先生、井口先生と三人で机を並べるとやっと通路がとれるくらい小さな研究室のこと、冬の寒い早朝、校庭の冷たい水道で雑布をしぼり、研究室の掃除をし、石炭ストーブの火をつけたりしたこと等、遂々この間のことのように思い出されます。

今とは比較にならない不自由さの中で、学生の皆さんも嬉々として、一所懸命に学んでいらした明るい御顔が、お姿が目に見えてまいります。当時から今日までの名簿や、御写真を取り出し、眺めておられますと、楽しかったこと、うれしかったこと、共にはげんだこと等が、次々と頭に浮びます。お一人一人のお名前とお顔が、そして教材で縫われたスーツの型や、色、生地まで今でもはっきりと見えてまいります、おなつかしさ一杯でございます。

あの頃は私もまだ若く、学生さんは自分の娘と同じ位に思われま

したが、近頃はもう孫のような具合で、この春には、私が関東に生まれてからの卒業生の御嬢様を短大に迎えることになりました、時の経過をしみじみと思わされている次第でございます。

しかし、時は移り、人は変わりましたが、関東短大の学生さんは、いつものびのびと明るい雰囲気です。

短大はおかげ様で、今は学生数も千五百名を超える規模に成長しました。校舎も東側には平潟湾を眼下に見下し、西には富士山をのぞむ見晴しのよいハンソン山の跡地に、真新しい白いスマートな建物が三棟そびえ立ち、短大体育館、短大寮と合せてすばらしく整備されました。校内の設備も最新式の最高の水準でそろえられて、昔の校舎で長く過しました私など、夢のようでございます。

ぜひ一度御来校下さって、永い間の希望と夢が実現し、更に力強く発展してゆこうとしている母校を御覧になって下さいませ。

私も四月からは、週一日だけ出校いたすことになり、久々振り度暇になります。どうぞおひまの折、昔語りにお出かけ下さいませ。卒業生の方々とおもひじて、お話することの出来る幸せは、教師としての何よりのものでございます。

永いことお世話になりましたこと、ほんとうに有難うございました。

どうぞ、お元気で、夫々の道を大切にお過ごし下さいませ。そして、母校を見守って下さいませ。



香報室



この欄は、卒業生の皆様の消息、感想文、等の発表の場として用意いたしました。短大香葉会「香葉」編集局宛、次号への原稿を随時お送り頂きたくお願いいたします。尚、今回は昨年総会出欠通知から無断で転載いたしました。紙面を借りてお礼申し上げます。

大変元気でやっております。教職二十六年をすぎ、昨秋欧米五ヶ国の視察を文部省派遣でさせて頂きました。

* 斉田実子（小河原） 26英*

中学校の教師生活二十七年になります。何年やっても「ダメな教師」です。つい先日三十五年も昔の恩師が私を学校に訪ねられ、授業をみて下さいました。彼は今年八十一才。今尚音楽教師として若者たちを育てておられます。「若い方から学ぶところ多いですね」と恩師。「とんでもございません。私こそ先生をお手本に頑張りたいと存じます」と私。本当に先生のようにになれるのかしら!!

* 大金津義 26 専英*

毎日が日曜日で困って居ります。失保、年金ETCと再就職の月給とのかね合いで、相変らず毎日毎日散歩と趣味を、色々探して居る現況です。娘二人本年就職です。

* 鈴木利治 28 英II*

卒業後二十年、仕事と、母親と妻と三役でかけずりまわっているうちに、あつという間に過ぎてしまったと思うこの頃、恩給がつかない、家事専従といきたいところですが、学校へ行けば行くで、そんなことを考えている暇もない程忙しい。年々忙しくなるようです。皆様にお会いしたいなあと思います。

* 明石晶子（明石） 33 英*

やっと厚生年金受給の年齢になりました、女一人暮らして行けるほどのものを頂き感謝して居ります。活発な奉仕活動は出来ませんが、バザー用の編物など致して居ります。（でも一つ一つ楽しんで居りますので、なかなか数が揃いません。）

* 石守あみ 34 英*

財団法人、ベター・ホーム協会に属し、「パンの会」で教えております。どうも家政科と英文科を、とり違えて卒業したようです？厚生省の児童家庭局の依頼で、児童のための朗

読奉仕のボランティア活動。毎日ガタガタと動きまわっている生活です。

村上節子(高梨) 34英

五年程前に、難病の一つである全身性エリテマトーデス、という病気を患ってしまった、現在も病院に通いながら鈴木株式会社で勤めて居ります。この四月に新入社員として関東学院から二人も入ってきた事は、私にとつて非常にうれしく、自慢に思つて居ります。

野口史乃 40英

柳生先生の学院長就任ノ誠におめでとうございます。英語劇でさんざんシゴイテクレたあのおやじが、全く初耳のこと故、びっくりしたり喜こんだり、十年も前の学生時代が本当に懐かしくよみがえつて参ります。近況といえば、主人と二人の坊主とチャボ、ウサギ、ハムスターとまるで動物園のような我家で、主人の仕事の手伝いをほったらかしては怒鳴られています。短大のご発展を心よりお祈り申し上げます。

伊藤陽子(高木) 40英

香葉会のつどい

新緑の美しい季節になりました。皆様にはお健やかにお過しのこととおよろこび申し上げます。

さて、今年度の総会をかねて、卒業生のつどいを新装なった母校で開催します。今回はこの3月で定年を迎えられた鳥越ノリ教授(家政科)をとくにお招きして親しく歓談の時を過したいと思ひますので、お誘い合せの上ぜひお出かけください。

日時 昭和54年6月24日(日)
午後1時30分～3時30分
受付時間 午後1時

会場 関東学院女子短期大学
横浜市金沢区六浦町4834

☎ 045 (784) 1 4 9 1

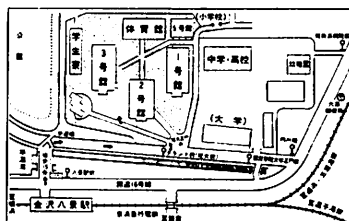
会費 1,500円

出席 本誌最終頁のハガキで6月18日
までにご連絡ください。

議題 1. 前年度事業報告および決算報告案

1. 今年度事業計画および予算案

1. その他



◎東京からは山手線で京浜東北線に換乗、京浜東北線
金沢八景駅下車(徒歩・急行停車駅)徒歩15分
京浜東北線バスターミナル西口徒歩1分(有楽町線)下車

関東学院女子短期大学香葉会
会長 古城 房子

一年に二―三回大学の近くを散歩しに行きます。その都度変つていくので、きれいな校舎を見ながらうれしい様な、何か寂しい様な気がいたします。主人の趣味に合わせてペラペラ園芸を楽しんでおります。

尾木喜久子(野口) 42英

せみのしきりに鳴く、この山奥の会津の故郷に帰つて来てから五年、今では、二児の母となり毎日忙しく生活しています。学生時代は、イエス様から逃げようと礼拝もさぼっていましたが、やはりつかまえられ、現在、毎週日曜日には必ず教会へ行き、神様の御言葉を子供をおんぶしながら聞いています。少しでも聖書の御言葉を実行に移せたら……等と祈りながら、なかなか出来ない弱い自分を反省させられています。どうか皆様元気でがんばって下さい。よろしく。

飯野政子(高山) 44英

昨年十一月に結婚いたしました。その結果、四十四年卒の軟式庭球部十名全員無事結

婚できました。それぞれママになって、忙しい毎日を送っているようです。私も二宮の青果店に稼ぎ、毎日新鮮な果物をお腹いっぱい食べてまいります。

関順子(平田) 44英

相変らず、レッスンに追われている毎日です。来る十月下旬、文化庁派遣在外研修員として、一年間ヨーロッパ等へ行って、パレエの勉強をします。九月二十五日(日)貯金ホールにて、「パフチサライの泉」という作品に主演することになっております。お時間がありましたら、是非、一度、舞台を観にきていただきたいと思っております。(五十三年六月現在)

尾本安代(康子) 47英

二十五日の同窓会には是非とも出席したく存じ、主人も心良く賛成してくれましたが、十二日のあいにくの宮城沖大地震の発生のため、止むなく欠席させていただきました。皆様方に大変、御心配をおかけしましたが、おかげ様で私達親子三人共守られました、かすりキズひとつ負わず、無事でございます。しか

し家の中はメチャメチャ、思い出の品々も多数、破損いたしました。

松本悦(高島) 50英

昭和五十二年二月から今年の一月末日まで、神奈川県警音楽隊カラーガードとして一年間勤務。二月から川崎警察に戻り、現在は外勤課に所属し、交番勤務をしております。

遠藤明美 50英

学報、香葉会ニュースを拝見し、懐しく母校、恩師、友人に思い巡らしております。只今、岡松先生の長編小説、「鉢をかづく女」を読んでおり、先生の丹念な描写が、一層私をひきつけます。今後も先生の御活躍期待してま

原鳴暁子(神谷) 42国

関東学院六浦小学校三年の長男と、保育園年長組の長女と、家事とに毎日振り回わられています。小学校の隣にある立派な短大の新館を眺めるたびに、お世話になった先生方が懐しく思い出されます。ますます母校が発展されますことを、お祈り致しております。

小林美代子(大谷) 43国

今年十月に二人目出産を控え、毎日、大きなお腹で長女のとを追っかけまわしています。「お母さんのぼんぼんに赤ちゃんいるの。」と、一才九ヶ月の娘はまわらぬ舌を動かしているんですヨ。本当にわかつているのかしら……？

持田しげ代(保科) 46国

現在、八ヶ月になろうとしている女児の母となり、もうすぐ、お膚の曲がり角の年齢？なのに、すでに、くねくね曲がりきって、このままいくと老化の坂道へ……。おしめに囲まれて、私の青春どこへ行く！と叫んでも、ちよっぴり幸せです。

和田和美(井馬) 49国

忙しすぎて、休みが欲しいくらいです。気がついてみたら、一日が終わっている状態。ただ、何もしないで過ぎてしまうので、つまらない生活を送っています。学生時代のように、何か一つに打ち込めるものがあつたらと思っています。(貴金属店勤務)

宮沢和子 53国

卒業して早いもので、今年で二十三年。私も中年になりましたが、気持の方は一年ごとに若返って参ります。でないかと娘と話が合いませんものね。娘も只今高二(横浜雙葉)。毎年夏は、主人からプレゼントされ、ここ四年海外で、命の洗濯をさせてもらってます。とても、幸せ♪主婦業も家政科の時が、本当に役立って、感謝の連続です。本当よ。皆さんよろしく……。

五十嵐かほる(金津) 30家

学報、香葉会ニュースをありがとっございしました。相変わらず主婦業に専念しておりますが、いつの間にか長女が割り込んでおり、喜ぶべきか、悲しむべきか……。娘なしでは、お台所が考えられないこの頃でございます。

佐々木須美子(広永) 33家

結婚して岩手の盛岡から、大阪の主人の家に嫁いで来て、六年目に入りました。今年の九月に四才になる娘の洋服を作って、ペアーで着ると、主人がちよっぴりひがみます。けれど、毎日せっせとミシンを踏んでは、娘の

相手をしているこの頃です。

柳瀬麗子(藤根) 43家

只今、娘一人。満二才です。主人の仕事の都合で大阪におりますので、覚える言葉は、大阪弁ばかり。生まれてからずっと神奈川県に育った私と主人は、面くらつてばかり……。アカン”などと言われて、目を白黒。しかし、娘智美が小学校に入る頃には、又神奈川県に帰るだろうと今から楽しみにしています。

小嶋秀子(柏木) 45家

社会つまり、会社、お金をもらつところは、学生時代程、甘くないことが痛切に感じられる、今日今頃は。

鈴木美奈子 53家

相変わらず健康でくらしていますが、できたら栄養指導などをうけてスマートになりたいと思っています。良いアドバイスがありましたら、おしえてください。

落合洋子 47食

栄養士は太ってはいけなと、いつも心に言いかけながら、ついつい手が出るためな私。子供からは、「ふとい先生」などと呼ばれて「ハイイノ」と手を振ってはいるもの、胸の中はズキーンと矢を刺され、明日からは、また新たな決心をするのです。

* 亀坂真理 51食*

今春、栄養士として小学校に勤務してから、三ヶ月が経過しました。食中毒は絶対に出不さないとの決意をもって毎日仕事にあたっています。短大時代のお友達にさそわれて、先日教会に行ってきました。短大時代は礼拝にも欠席しがちの私でしたが、その日をケイキに聖書を読む決心をし、現在、創世紀を読み終えようとしています。

* 笹本郁子 52食*

在学中、私は信仰をもっていませんでした。興味は多少あったのですが、礼拝にも一度も出席することなしに卒業してしまつたのです。今年四月から教会に通うようになり、五月か

らは、早天祈禱会に毎日出させていたでいます。七月二日に洗礼式があり、それにこなえています。今本当にハレルヤノです。わが母校がもつともっとキリスト教に力をいれて下さり、本当に多くの大学生が救われ、目の楽しさをもとめず、真実な幸福を神様によつて得ることができましように祈つています。柳生先生は存じ上げませんが、信仰をお持ちとのこと、大変うれしく神のしゆくふくがありますように、主にますますもちいられて、学院長としての働きがなされますように、お祈りしています。アーメン感謝です。

* 横山郁子 52食*

二年間勤めた幼稚園とさようならをして、只今保母として横浜市に勤務中一番難しい三才児を担当しています。「三つ子の魂百までも」と言われるように大切な時期の子供達十八人を複数で受けもっているので大変です。でもやりがいのある仕事がんばっています。

* 鎌田真弓 49幼*

秋田に帰り、早二年目に入りました。就職も決まらないまま帰つたものの過疎地のため

か、幼児の数も年々減る一方で、資格がありながら就職できずにいる私と同じ様な人が沢山いるのに驚きました。いつまでもアラアラしていてもしょうがないと、洋裁を勉強中です。就職はやはりできそうにありませんが、将来幼児教育を学んだことで良き母になる自信がついたような気がします。

* 奈良美知子 51幼*

四月・五月がすぎ、六月に入り、ますます幼児教育の困難さを切実に感じています。そして、一人の社会人としての責任にも重さを感じます。数ヶ月前の学生時代の気軽さ、甘さ、だらしなさがなつかしいような、うらめしいような、勉強とは、社会に出てから必要性を思わされるものなのですね。あー明日がこわい。

* 高梨るみ子 52幼*

昼からカエルが鳴き、夕ぐれ時はコウモリが飛びかき、夜にはカとの戦い。八景の強風がなつかしい。穏やかな広島に来て、結婚式を終えて一週間。新前奥さん、やっと落着いて職探しなぞ？ 田舎でもここは物価が高いじゃけん…。

* 原恵美子(佐藤) 52幼*

覚え書 (八)

— 女専・短大小史 —

上市 二郎

女子専門学校の発足当時から書き始めても
う八回目を綴るようになってしまった。今で
は、記録をひもといて卒業生の皆さんに過去
の様子を単にお知らせすることだけでなく、
その時代、時代に学生生活を過ごされた方々
には良き思い出となっていることなど、この
メモの目的がそんなことも含まれるようにな
っているようである。しかし、現在の記録も
将来への足がかりとして重要な役割をはたし
てくれることも考えられるので少し紙面を割
いて記しておく。

昭和五十四年という年は本学にとって大き
な転換の年と言えよう。学校法人関東学院と
いう太い幹に連なる一つの枝として女子の高
等教育を始めてから、はや三十三年、短期大
学になってからでも二十九年目を迎えた年で
ある。

関東学院女子短期大学の校名をブロンズに
深く刻み込んだ正門、その前に立って小高い
土地にある建物群を見上げていると、過去の
様々な歴史を乗り越えて歩み抜いてきた雄姿
いや、華麗な雄姿と私には思える。

昭和四十七年春完成した女子の体育館、そ
の翌年幼児教育科館が出来上って、この地の
建物と、大学構内の建物と二カ所での授業が
七年間続いた。やっとこの四月からは全学科
の授業ができ文字通り女子の学園として新た
に存在する年である。

今回完成した家政科館及び英文・国文科館
の献堂式は二月二十一日(水)午前十一時よ
り深い感謝のうちに取り行われた。そしてま
た、年々増加している受験生も、三千名を越
え、この二月の第一期試験のみをとってみても
一、六六九名、昨年の七割五分増しという急
増の年である。前号に引き続き書いて書いて
当時、即ち昭和二十七年頃は受験者数も二三
〇名、予想もできなかった数字である。

さて、前号は昭和二十七年十二月のところ
だったが、ここで正月の休みを利用してのス
キー実習の計画が発表されている。行先は新
潟県中頸城郡名香山村妙高温泉の香風館、一
月五日(月)より十日(土)の日程である。正

味四日間滑って転んで、夜は親睦のひととき
を持ち楽しく過ごした。この費用が往復旅費
と宿泊費、米代(当時は米持参が多く米代は別
計算)含めて合計二、〇三〇円となっている。

このような集りが毎年正月休みに計画されて
いた。そのうちのひとこまを思い出してみ
ると——〇日の午後八時三〇分に横浜駅東口に
集合した一行は一路上野、高崎を経て翌朝信
越本線の田口駅(現在の妙高高原駅)へ午前
七時十七分に着く。駅前に出て見回す雪景色
に学生は目を円くしている。風は冷たい。宿へ
向う道路は雪が踏み固められ家の軒の高さ、
香風館の入口も雪の階段を降りて玄関へ。宿
に入っても学生はそわそわわわして夜行列車
の疲れもどこえやら、ひと休みするものもど
かしく身仕度を整えて早速スキーを肩に外に
出る。目的地(一本松)までは約一時間、一



歩一歩雪道を踏み
しめて登って行く。
そのうち肌にしん
らりと汗を感じる
ようになる。吹き
抜ける冷たい風が
気持ち良い。ここは
初心者向けから中、

上級者向きスロープと色々ある。ひと休みしてから、スキートの履き方から指導を受ける。そして滑って下り、歩いて登るの繰り返し。

半日もすると何とか一人で滑れるようになるから楽しい。当時のことだからスキーウェアも今のようにはカラフルなものでなく、或る先生などはオーバーを着て手拭いを頭から頬かぶりして滑っている姿が今でも浮かぶ――

新しい年を迎えるといよいよ家政科の六浦校地への移転が具体的に動きだした。この移転に際して文部省の査察官が一月二十一日（水）六浦の校舎、施設設備について視察が行われている。そして、翌月中旬には許可が正式におりた。

新しい制度の短期大学が、昭和二十五年に発足したが暫定的な制度であったため、設置基準についてもたびたび改正もあって、この年も一月十四日に短期大学設置基準改正趣旨徹底協議会が跡見学園に於て終日開かれていた。やがて昭和三十九年になって、やっと恒久化した制度として学校教育法に記載されるようになったのであるが、この短期大学制度の恒久的なものになるためには各短大が教育に経営に非常に努力し、地域社会に貢献し、更に全国の私立短期大学が力を併せての結果

であることは忘れられない。

再度来日のスタンレー・ジョーンズ博士の特別講演会が二月七日（土）Y M C A に於て午前十時より開かれ、そして市内のミッシェンスクールの学生生徒に對しては午後三時から三春台のグレースェット記念講堂にて行われており、この会では相当数の決心者が出たことを思い出す。夜は指路教会で集会が持たれていた。

二月から三月にかけては毎年忙しい時期に入るがこの年は家政科移転に伴って関連行事も多く事務局は目が廻るようだった。四月から家政科は六浦校地、英文科は昼夜共に三春台校地、と別々の形を取りそれぞれの計画を行うため一カ年間は文字通り別世帯のようになってしまふ。そのため形ばかりのお別れの会が三月十三日（金）の午後開かれている。そしてその席で次のようなことが発表されている。(一)家政科主任と家政科の教務主任とを兼ねて松垣好子先生にその任に當ってもらうこと。(二)学生主事と女子寮の舎監とを兼ねて角田静枝先生（故中居夫人）に担当してもらうこと。(三)家政科を含めた全体の教授会を毎月一回第一木曜日とすること。など………そしていよいよ四月五日六日の両日を使って六浦校地へ移転したのであるが、すべてが順調に運

んで翌年英文科が移る折のような苦勞はなかった。そのような訳でこの年は入学式も三回に分けて行っている。四月十五日（水）午後一時半より英文科、十六日（木）午後六時より英文科第二部と、共に三春台校地で、十八日（土）午後一時半より家政科が六浦校地で、というように大変忙しい年だった。

記録は少し戻るのが、前の七号にも書いたように家政科が六浦校地へ移った場合、大卒と同じように寄宿舎が必要である、と言われているにも具体的には何も解っていなかった。当時学院内に収益事業を目的として事業部が文部省で認められて存在していた。そのうちメッキ工場、木工場は知っておったが、その外に建築設計事務所があったことは知らなかった。メッキ工場は昭和四十五年に独立して現在、関東化成工業として横須賀市池田町で営業しているし、木工場も昨年秋頃、学院から離れて独立、関東木工として横須賀市舟倉町に現存している。しかし建築事務所なるものはその後どうなったのか詳しいことは知らない。当時その建築事務所勤めていたという方と最近偶然出会う機会があったので、その後の様子、特に女子の寄宿舎のことについて尋ねてみると、どうも、その頃松垣先生が

白山先生に相談されて、この事務所が計画を立ててくれたらしい。そして資金面は白山先生が側面より色々と指導されて出来上った模様である。当時榎垣先生が白山先生に感謝しておられたのを思い出す。費用は約二百万円位だったと記憶している。名称については家政科内で研究していたが、その結果旧約聖書のルツ記に出てくる誠実な女性の名前を取って「ルツ寮」と名付けることになった。ルツ寮は収容人員二十名程の小さな女子寮だった。昭和二十八年度よりこの寮を使用するので



あるが、短大全体の学生数も少なかった当時とはいえ、最初に入寮許可された者は僅かに

英文科生五名、家政科生四名だった。この方々はこじんまりした家庭的な雰囲気の中で過ごされた寮生活を今頃思い出されていることでしょう。昭和三十三年に新しく五十名収容の女子寮が完成したので、この建物はルツ館と称して学生の各クラブ室に使用していた。ところが昨年一月各クラブ室を供える五号館がこの地に完成し、また、ルツ館の場所が大学の新図書館建設用地に入っていたため、昨五十二年三月四日よりルツ館の取り壊しが始まり今は既にその姿も消えてしまった。

入学式を済ますとオリエンテーションの週間、この頃ともなると年間の授業予定などが発表され、また、この年の夏の英語講習会（昼の部と夜の部）夜の学生のための教職科目集中授業および認定講習の期間なども発表されている。家政科は六浦校地で夏の計画を発表している。それは七月の上旬より中旬にかけて行われ、地域住民との交わりをも考えてのことか、学生と共に家庭の夫人なども加わり手芸、染色、洋裁、料理などの講習会を開いて好評を博していた。学友会主催の日帰り旅行（五月実施）や、昨年までは修学旅行を主に関西方面に向けて行っていたが、本年は是非とも北への希望が多く学生課で学生と

共に計画したのがなんと北海道旅行ということだった。この第一回北海道旅行については七月実施のため次号にとり上げたい。これらを含めて教授会の承認が得られている。なお毎年夏休みに入る直前、即ち七月上旬頃行われていた宗教部主催の修養会と八月上旬実施していた体育部主催のキャンプとを合併して学校行事とし、学校主催の夏期学校的なものにしてどうかとの意見がだされ、早速研究委員が選ばれて基本的事項について研究討議が始まっている。そして五月末にはこの研究委員より中間報告がだされた。それは学校主催で夏期学校として実施すること。名称は仮称ではあるが修養会キャンプとし宗教的なプログラムの中に親睦を深めるものを折り込むこと。七月上旬に実施したいことなどが提出されたが、場所については仲々適当な所がなく問題も多く、続けて研究することになった。

学友会主催の日帰り旅行は予定通り五月十二日（金）静岡県まで足を延ばして、三保の松原、日本平、久能山など廻って親睦を深める会として終っている。費用は列車運賃バス代茶代雑費など一切含めて五五〇円、当時の物価が忍ばれる。

（つづく）

コイヨースポットライト

翔んでる心をつかみたい

江 幡 玲 子



「翔んでる心」とは何でしょう。

飛びあがる、さまよう、逃げていく、遊びたい、そんな心なのでしょうか？ かつこつけている心、うわついた心、不確な心、地に足がついていない子どもたちの心、そんな心をいうのでしょうか？

どこの家でも、子育ての間には多かれすくなかれ悩みことや心配ごとがあります。

今まではとてもいい子だったのに、突然と反抗的な口をきくようになったり、ぶいと口をきかなくなったり、宿題をほり出して遊び歩いている時も心配でガミガミ言っていたけれど、部屋にこもりきりになって机にしがみついて、食事に呼んでも出て来なくなればそれもまた心配の種となります。

学校内で万引きをしたグループがある。という話を聞いて、まさかうちの子が入っているなんて夢にも思わなかったのに、その名を

つらねているのを知ったときのショック、登校しているとはかり思っていたら、休んでいるけれど……、という電話を頂いたときのおどろきなど、小さいことから心臓のとまりそうになることまでを通過して子どもたちは大人になっていきます、なってきました。

一寸したことぐらいならあってもとだから仕方ないけれど、大事にならなければよいが……という心配をおもちの方もあります。二十年間の少年相談の仕事を通して一寸したことが子どもをかえていく、よくもするし、悪くもするということが気がついていきます。その中からいくつかを記してみます。

○ 反抗心を見なおそう

反抗の反対は従順です。いままで従順であった子が従順でなくなると、反抗的になったといえます。そうでしょうか。何歳になっても、ハイママ、ハイお母さま、といって母親に従順であったら、こんなに育てやすいことはありません。そういう子のことを「いい子」といいます。でもお母さんにとってのいい子は、どうでもいい子ということにならないでしょうか、従順とは時として依存的なことであり、自立のできないまま大人になってしまいう危険性もあります。一人でやりたい！と誰しも思うことがあります。二才頃に口にはこんだスプーンのごはんをはらいのけて、自分で井の中に手をつっこんで食べたがったのを、ご記憶でしょう。こぼしながら自分で上手に食べる方法をおぼえてきました。思春期になって、なんののかの理

窟をこね、親の言うようにしなくなるのは親の方から見て反抗的であつても、子どもの方からみれば「独立への闘い」でもあるわけだ。自立への道筋でもあるのです。

思春期の反抗は子どもにとつても親にとつても「大人になること」の期待のこめられている得難い時といえます。反抗期のない子はもしかしたら独立への基盤作りの弱い子どもといえましょう。息子や娘の反抗期をさけたり、きらつたりしないで正面からうけとめてほしいと思います。親も成長する筈です。

○ほめ方・叱り方

「ほめ方・叱り方」という講演の題を電話口で告げると、どういわけか、半分以上の会場で「叱り方・ほめ方」となっているのです。ほめ方はさておいて、叱り方をしっかりおぼえて来なくちゃあ……という気持ちが見えます。

自分自身の性格の中でとてもよいと思つてるところを三つ書いて下さい。という問を出すと子どもたちも、そして大人もとても困るようです。なかなか三つみつけれないのです。ところが、自身の性格の中でよくないと思つてるところを三つ書いて下さいという、さらさらと三つも四つも書いてられます。子どもばかりでなく大人も同じようです。つまり子どもも大人も、叱られてばかりいて自分のよくない点ばかり教えてもらつていようです。ほめてやらなければ自分のよいところに気づくことはできないではありませんか。自分のよいところを知らなければ人は幸せにもなれないし、毎日毎日反省ばかりでたのしくないではありませんか、よいところを知つていれば、つまりほめられていられる体験があれば、悪いところを素直になおそうという気にもなるのではないのでしょうか。

ほめ方と叱り方とは一対であるし、ほめ方の上手な人は叱り方も上手ということになるようです。

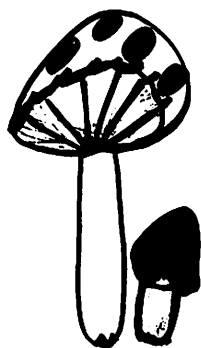
大人だつて、自分の悪いところを何十回も毎日のように家族からいわれれば嫌気がさして、わかっているからもう言わないでほしいと思うし、どんなに善意で言つてくれているとわかつていてもなおす気なんてなくなつてしまふのではないのでしょうか、「あなたのためを思つて言つているのよ」なんて毎日言つたところで、うるさいと感じたらば、折角叱つたのに、「文句ばかり言つている」ととられて効果はなくなつてしまふでしょう。そんな叱り方をしていますか？

思春期の落ち着かない不安定な心を、まずそつと「目」でつかまえて見守り、しっかり子どもの行動のうしろにある心を見て、感じてタイミングよく、ほめ、そしてきつちりと叱ることが、ほめ上手、叱り上手ともいえます。

短英三十一年卒

筆者紹介

菅視庁少年相談室相談員及び警察学校講師と上智大学講師



展 望



前回までは、先生方に原稿をいただいたり、お宅を訪問してインタビューしたものを納めていましたが、年ごとに先生が増えられ、いかにして、多くの先生方からお話を伺うか、という問題を話し合った結果、今回は、質問を設けお答えいただくことにしました。

質問 1

孤島に一人残された時、本を一冊持っているとしたら何ですか？

その理由は？

質問 2

教員にならなかつた時の職業は何でしょうか？

質問 3

あなたに一番影響を与えた本は何ですか？

質問 4

学校内で一番落ちつく場所はどこでしょうか？

質問 5

あなたが今熱中していることは何ですか？

質問 6

今の若い女性、あるいは学生に望むことがありますか、お書き下さい。

国文科教授 山下登喜子



1

『全日本出版目録』熟読して、せっせと注文伝票を書くことにいたしました。

「え、本が来ないじゃないかって？だからいいんじゃないやしませんか。読みたいと思う本を全部読むなんて、どうせできないこと」

2

アンケート専門雑誌の編集者。「あなた一億円あったらどうします？」とか、「理想の人は？」とか、「教員にならなかつた時の職業は何でしょうか」とか、アンケート記事ばかりで雑誌をつくります。……だって、ラクでしょ。

3 ある時はジイドの『狭き門』、ある時は

ロマンロランの『魅せられたる魂』、そ

4 口にできません。

5 ありません。

6 一を見て十を知ること、十を知って百を
悟ること。

家政科助教授 吉田 博



本を書き、ベストセラーをねらう。

2 『南極越冬隊長』小学四年生に南極へ行く

事を決意し、中学時代はその準備の為に
気象クラブを設立した。高校時代は肉體
鍛錬に専念し、大学時代は雪中訓練に励
んだ。

しかし、雪中訓練のおり、南国伊豆育ち
の自分には不適合であると判断し、現在
に至るが時々、南極で活躍している夢を
見る。ふとんの中で。

3 あえてあげるならば深田久弥著の『日本
百名山』彼の一生をかけて踏破した百峰

を、現在、自分も彼の後に続き登ってい
る。自分の人間性に影響を与えたものは
山行であろうと考えているので、それを
あげたい。

4 一号館三階の食品学研究室でイスに腰を

おろし、机の上に長い足を投げ出し（ク
ツは脱ぐ）、一人でコーヒーを飲んでいる
時。但し、五時三十五分以後の学生のい
ない研究室でのこと。

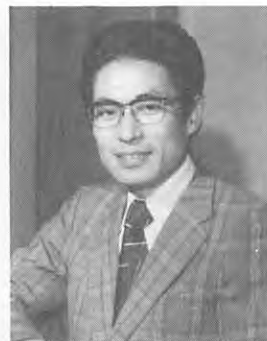
5 『山行』日本百名山を生涯かけて踏破した

いと考えている。今年の正月で五十六峰
になる。

6 毎日が新鮮で感激多き日々であるといえ

る様な生き方をして欲しい。

英文科講師 深沢 広助



1 そんな所ではとても読書する気などない
と思います。

2 教員以外の職業は思いつきません。

3 『馬に乗った水夫』（アービング・ストー
ン著）アメリカの作家ジャック・ロンド
ンの伝記です。

4 自分の目標を定めるきっかけになったか
ら。

5 4 自分の研究室。
特にありません。

1 『動植物図鑑』。孤島に生息する動植物を
食中毒することなく、食用に供する為に。
なお、文明社会に戻れた暁には、『現代
版ロビンソンクルーソー』という題名で

大変抽象的になりますが、女性としての
あるべき姿を自分なりに研究判断し、そ
れを身につけて欲しいと思います。



国文科教授 杉野要吉



質問1 1億円もらって自由に使えると
したら何に使いますか？

質問2 好きな食物、嫌いな食物は何で
すか？

質問3 あなたに一番影響を与えた本は
何ですか？

質問4 教員の魅力とは何ですか？

質問5 学校内で一番落ちつく場所はど
こでしょうか？

質問6 短大に務めてからの一番の失敗
談をどうぞ。

1

実際にあると思われることを空想するに
は少し年をとりすぎました。もう二十歳
若かつたら、それをふところに世界の果
てまで放浪してまわり、そこから、現在
の自分とはちがった行動的なもうひとり
の自分を発見することになったかもしれ
ません。

2

きょう家で赤飯をふかしたのを、おいし
くたべました。きのこ汁が好きです。銀
閣寺近くの文人弁当というのがおいしか
ったのを思い出します。

3

工業高校で機械いじりをしていた私は急

4

に国語が好きになり、万葉集を声をあげ
て読み、茂吉や屋星や白秋の歌や詩を声
に出してくりかえして読んだ。科学者の
眼の利いた寅彦の随筆も、好きで、よく
読んだ。
いっぽう、百三の『愛と認識との出発』
を線を引き読んで読んだ。そのころ重治は、
まだ私の前に姿をあらわしてきていな
かった。

おなじころ、外地から復員して通訳をし
ておられた六十近い岡田先生が、古びた
兵隊服姿の英語の先生として私の前に姿
をあらわした。

「Our motto is to grow wiser than
teachers and parents,……」

英語の授業は先生が私たちのために作っ
て下さった英文を声をそろえて暗誦する
ことからはじまった。すると老先生は、
きまって眼をつむって、じつと耳を傾け
ている……。身なりをかまわぬ熱心な先
生で、岡田先生から私は文学のおもしろ
味を同時に教わった。私の出会った忘れ
がたい先生の一人である。

(5)と(6)は「一番」と聞かれると、すぐ思
い浮かびません。

幼児教育科助教 村上 顕



- 1 オーケストラと合唱をつくりたい。
- 2 好きなものは肉類。
- 3 嫌いなものはママレード。
- 4 小学生ぐらいで「シユバイツアー自伝」
- 5 学生の成長を見ること。
- 6 天城山荘のリトリートの時、学生がいたずらに置いたムカデのおもちゃに気づき今度はグラランドに降りる手すりのところにのせて折しも通りがかったK事務長に「ムカデですよ!」と言ったところ、本物と間違えてガソリンで燃やしてしまわ

れたこと。
その他いろいろあります。

一般教育講師 田山美智子



- 1 テニスクラブを経営してみたいですね。そして、若い選手を育てる。
- 2 又、休日には家族で、テニスを楽しみたいです。
- 3 好きな食物 グラタン。
- 4 生うに。
- 5 嫌いな食物 親子丼。
- 6

カツ丼。
福田雅之助氏が書いたテニスの本に庭球する心というのが書いてありました。

私が、テニスを始めたのが高一からで部屋にも、これを貼り、毎日読んでいました。

日体大時代の厳しい練習の時もよく頭に入れて、練習に励んだものでした。

「庭球する心」

この一球は、絶対無二の一球なりされば、身心を挙げて一打すべし

この一球一打に、技を磨き

体力を鍛え精神力を養うべきなり

この一球一打に、今の自己を発揮すべし

これを庭球する心という

- 4 運動嫌いの者が少しでも運動することの楽しさを知って卒業後も、運動する必要性を理解して、スポーツに親しむ気持を一人でも多く持つてくれること。
- 5 体育館。
- 6 別になし。

同期会だより

— 英文科第四回卒 —

薄紫に彩られた和とし紙に、相川先生はじめ柳生先生、兵藤先生、小滝先生の風合い馴染む御筆托され、英文科第四回卒同期会参会者一人ひとり、懐しい筆を淡緑の帖に走らせて三十余名、綴られました。

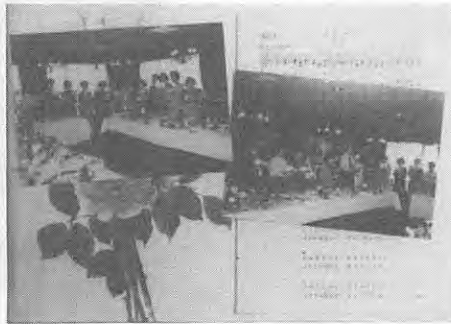
七七年十月三十日、蒼晴の一日。

木立ちや花東に饗された外人墓地より遠景が霞かに、山手スペイン料理ラ・ロシータへと、白いテーブル・クロスに飾られたピンクの花々、菊の可愛い香りが、待ちうける。

「地の塩、世のともしび」の難も、数々のお導きを受け、学び舎巣立ちて、はや二十歳の余を迎え、成人式なる同期会。

讚美歌四〇三番の序奏、喜びの祈りに幕が開く。御来駕の栄をうけ、先生方のお言葉は永遠の日に供えるユーモア鏤ばめての慈愛あふるる文学的四篇。変らぬ先生方のお若きに鼓舞されて会も賑わい、お懐しい和服、洋服なймаせて、現代雛の微笑顔、変らず揃いで近況自己紹介。御欠席のお便りも報じ、そ

れぞれに課せられた道、着実に、美わしく帆を進める三廻りも成長した机友の姿をともしらみ、祝しました。



和やかに、テーブルも立食に替えての歓談花咲き、陽も西窓に移り映え、学校時代に戻つてのプレゼント・コーナーを設ける。着席の銘々カードは、ライオン、小熊のハンガー達、ガラス細工の人形や鈴鳴るキャンドル、千支に因んだ次来の木馬などにかえられる。御都合のため上市先生に御出席いただけず残念でしたが、学報をお心にかけて下さり、一同学内の模様にお知らせすることが出来

ました。

永い間、一つの許、学院を輪として先生方が、日々守っていて下さるのであり、私共がそこに在り、時間を超えても又、一つに在って下さることを憶え、学院を母校に致せた幸せを深く感謝いたしました。

夕映えの山手も名残り惜しく、静かに暮装し、四九六番、うるわしの白百合を歌い、先生方の御健勝、学院の発展を祈り、お遣い出来ぬ諸姉妹を想いて、第一回同期会の閉幕。

先生方はじめ皆様の御結集、又同志の方々の御尽力により盛会に導かれましたことを感謝いたし、心暖まる数々のお札の御状、心より嬉しく筆を擱きます。

短英三十年卒 松岡梅子

五十三年度

総会報告

恒例の短大同窓会の定期総会が、例年のように六月の最終日曜日、二十五日に、前年と同じ相生別館のレセプションホールで開かれた。前日の雨はどうやら上ったものの薄曇りで少々心配な空模様……しかし梅雨の時期なのに総会当日丈は不思議と好天に恵まれる香葉会のこと、まずまずの出足とふんだが、例年よりかなり少なく約六〇名という少し淋しい数だった。会則変更の議事お知らせが、ひびいたのかナ？

先ず成川勝子さん（短四十九年卒、国文科副手）の司会で礼拝。奏樂は柳生直行院長の奥方、柳生二三さん（短英二十八年卒、旧姓古川）当日はご自分で作曲された美しい奏樂を弾いて下さって、一同うっとり。（自作自演のことは後で判りました。奥床しい方！又、お願いします）

問題の議題をかかえた総会の司会は、副会長の相吉典子さん（短英三十六年卒、旧姓後藤）。事務報告、会計報告までは短時間に、

スムーズに。会則変更の審議は、出された幹事案案に対して色々のご意見が出され、一部変更、一部は改めて幹事会で討議し直し字句は従来通りのものを生かすことに決定した。（別記参照）この審議が、ちよつと長びき予定より時間オーバー。お疲れ様でした。出席の皆様は熱心な協力に感謝しております。

二部は田中啓子さん（短家五十二年卒体育館勤務）の司会で、先ず、ご出席下さった先生方を上市事務長がユーモラスに次々と紹介して下さる。次いで来賓の加藤理事長、高梨合同同窓会長のご挨拶、お二人共香葉会の誕生と成長に多大のご尽力を下さった方である。続いて下田学長の学校近況報告があり、香葉会は二号館完成を祝して時計を贈ることにし

目録を差上げた。当日のメインイベントは、柳生先生の講演。五十三年四月に院長に就任されて以来、益々ご多忙の中を時間をさいて下さった。ロマンズホワイト？のおつむに似ぬ若々しいお顔、昔から変らぬスマートなダンディぶり。とても面白く反省もさせられるお話だった。その後は自由にお喋りの時間、食べたり飲んだり、先生方のスピーチを聞きお互いの再会を喜び合い、五十四年度は、新装の校舎でお逢いすることを約束した。

当日ご紹介出来なかつた、新幹事長、副幹事長が決まりました。

幹事長―江口和子さん、短家四十三年卒
川崎の東三輪幼稚園に勤務。明るくフアイトのあるお嬢さん。お料理の腕は中々のものらしい。今度は会席料理に挑戦するべく張切っているらしい。

副幹事長―中石みどりさん、短幼五十一年卒、幼児教育科 副手。

もの静かにみえるが本当は中々オチャメ？とてもしっかりした芯のあるお嬢さん。イラストが得意（香葉をごらん下さい）香葉の編集も熱心にやっ下さってとてもありがたい。よろしくお願いします。（古城記）



関東学院女子短期大学 香 葉 会

昭 和 52 年 度 決 算				53 年 度 予 算	
収 入 の 部	予 算	決 算	増 減	収 入 の 部	
会 費 @3,200×610	1,952,000	1,952,000	0	@3,600×2	
合同援助金@1,000×610	610,000	610,000	0	会 費 @4,000×612	2,455,200
賛 助 金 (126名)	50,000	196,450	146,450	合同援助金@1,000×614	614,000
預金利息	0	2,594	2,594	賛 助 金	50,000
前 年 度 繰 越 金	537,389	537,389	0	委 託 販 売 手 数 料	200,000
				預 金 利 息	15,000
				前 年 度 繰 越 金	479,413
合 計	3,149,389	3,298,433	149,044	合 計	3,813,613

支 出 の 部	予 算	決 算	増 減	支 出 の 部	
事 業 費	850,000	771,545	78,455	事 業 費	700,000
総 会 費	350,000	284,680	65,320	総 会 費	450,000
会 合 費	90,000	84,460	5,540	会 合 費	200,000
通 信 費	20,000	1,043	18,957	通 信 費	100,000
交 通 費	60,000	40,510	19,490	交 通 費	70,000
事 務 印 刷 費	50,000	27,242	22,758	事 務 印 刷 費	100,000
給 与 費	600,000	560,540	39,460	事 務 委 託 費	300,000
新 入 会 員 歓 迎 費	116,000	116,000	0	新 入 会 員 歓 迎 費	160,000
そ の 他 雑 費	20,389	15,000	5,389	雑 費	185,413
予 備 費	100,000	25,000	75,000	予 備 費	150,000
合同分担金@1,300×610	793,000	793,000	0	合同分担金@1,300×614	798,200
基 本 金 勘 定 繰 出	100,000	100,000	0	基 本 金 繰 出	200,000
翌 年 度 繰 越 金	0	479,413	△ 479,413	次 年 度 繰 越 金 (香葉発行準備金)	400,000
合 計	3,149,389	3,298,433	△ 149,044	合 計	3,813,613



香葉会会則新旧対照表

評議員氏名 (敬称略)

新

第四条

本会には次の役員を置く。

(略)

評議員 各科各年度一名
以上および特別会員より
若干名

(略)

第六条

役員は次の方法によってこれを定める。

(略)

会長、副会長は總會において評議員中より選出する。

(略)

役員は一年とする。ただし、再選を妨げない。

(略)

第十条 本会の会費は関東学院に委嘱して……

付則

本会則は昭和四十五年六月二十八日より実施する。
本会則は昭和五十三年六月二十五日より改正実施する。

旧

第四条

本会には次の役員を置く。

(略)

評議員 各科各年度一名
以上

(略)

第六条

役員は次の方法によってこれを定める。

(略)

会長、副会長は總會において正会員中より選出する。ただし、總會の承認を経て評議員にその選出権を委嘱することができ

(略)

幹事長以下各役員は任期は一ヶ年とする。

(略)

第十条 本会の会計は関東学院に委嘱して……

付則

本会則は昭和四十五年六月二十八日より実施する。

専英—竹村久子(1)出菜美子(2)北川光子(3)専英—佐藤久子(1)
短英—古城房子(1)背木千恵子(2)松岡梅子(4)中島はま子(5)安部純子(6)行木康子(7)村上節子(8)梁惠霞(11)新海浜子(13)次藤恵美子(14)岡本光子(15)川口香子(16)今井桂子(17)宮田蓉子(17)三木和(17)北野美恵子(18)横森訓子(18)小野寺とも子(18)徳田淳子(19)田中潤子(20)馬場玲子(21)小山内正子(22)菊地恵子(22)市川雅代(23)鈴木朋江(23)横井紀子(24)布川まゆみ(24)花島裕子(25)佐々木宏子(25)北村雅代(26)西原あゆみ(26)齋藤直己(27)西尾美佐子(27)小柴容子(28)木金陽子(28)短英—光畑清(1)松本佳子(2)松本政子(4)背木武志(6)小島美決(7)小島栄松(8)太田正道(9)杉本博司(11)齊田和子(12)鈴木松雄(13)米村祥恵(14)柏瀬圭子(15)高英—加藤日出子(3)短英—鈴木恵美子(1)江成千恵子(2)西村恵子(4)横溝喜代子(5)塚本令子(6)佐藤恭子(7)金子貞子(9)相吉典子(10)八木千恵子(11)中川道子(14)久保石暉子(15)三村勝美(16)山本直江(17)萩原かほる(17)江口和子(17)加藤猶子(18)守屋久子(18)中沢時子(19)齋藤光枝(19)谷利り子(20)庭田美紀子(21)中鉢智恵(22)瀬尾智子(22)相原利江(23)細谷桂(23)石井靖子(24)平川淳子(24)佐久間恵美(25)相沢純子(25)杉山圭以子(26)田中啓子(26)渡辺日登美(27)高家—山上治代(2)短英—川口和美(26)笹本都子(27)石川清子(28)新島宏子(28)短英—古沢愛子(1)岩橋美穂(1)峰谷弘子(2)中村真金(2)林純子(3)工藤和子(4)平尾美喜代(5)大津美也子(6)浜松清美(7)葛城容子(7)長井弥生(8)渡辺順子(8)五十嵐亮子(9)伝田照子(10)辻真由美(10)杉浦百合子(11)金子喜重子(11)桜井真澄(12)桜沢昌子(12)短幼—加藤千鶴子(1)栗原あつ子(2)中石みどり(2)角田祐子(4)金井佐代子(4)背木葉子(5)江原ひとみ(5)

幹事氏名 (敬称略)
古城房子 背木千恵子 相吉典子 松岡梅子 石田楨子 小島美決 江口和子 中石みどり

合同同窓会報告

合同同窓会と申しますのは、燦葉会(大学) 檄檻会(三春台中高校) 六葉会(六浦中高校) 香葉会(短大)の四つの同窓会を一つにまとめたものの総称で、各同窓会(部会とよぶ)から評議員と幹事を会員の代表としておくりこんでいます。香葉会からは、会長古城、副会長相吉、幹事長江口、副幹事長中石、幹事青木、同小島の六名が出ており、相吉、江口の二名が幹事に、青木が会計監査になっています。一九七〇年に短大が「香葉会」として発足する迄は、大学の燦葉会支部として活動費を戴いていたのですが会員が三千名を越えた時点で独立を志ざし、当時の燦葉会会長の加藤亮三氏、副会長の高梨勇氏のご理解とご援助をいただいで香葉会が誕生した訳です。以来お二方は、毎年総会にもご出席下さり、合同同窓会長としても香葉会の為に言葉づくせないご助言とご援助を戴きました。

した名会長として各部会をまとめてきて下さいました。尚、一九七八年九月からの会長田中氏のスタッフとして副会長に、飯島義雄氏(燦葉会長) 岡田吉民氏(六葉会長) 古城の三名、幹事長に水野哲太郎氏(檄檻会) 副幹事長に西岡義栄氏(六葉会)が決まりました。監事は前年度と同じく、本田博氏(檄檻会)と青木です。五四年年度の議案として合同同窓会規約の改正が決められ、香葉会から、相吉青木の二名が規約委員に出て案を練っており香葉会としても意見をまとめております。

加藤氏、高梨氏は現在、それぞれ現役を退かれましたがお二人の同窓会と学校に対する貢献は理事長、理事、会長のお仕事を通し、多大なものがあり、そのお人柄から申しても同窓会全体にとって大変な損失で残念で仕方がありません。是非、顧問として会の為に更に必要な人材となって戴きたいと願って止みません。長年お世話になった感謝をこめて、香葉会では去る三月下旬、役員は上市事務長中村庶務課長を加えてお二人を春緑の鎌倉へお招きし会食を致しましたが大変喜んで下さり、その際にお二人から会へご寄附を頂戴いたしました。会員一同心から御礼申し上げます。

香葉会の部屋いただきました

香葉会の会員数の増加はここ二、三年急速にのび運営も中々大変になってきました。事務処理は庶務課が引受けてやって下さいます。記録保存のロッカーの置場、委員が気軽に休める場所がほしいとお願いして下さったが今度一号館五階に一室用意して下さいました。卒業生の皆様も是非ご利用下さい。

購売部誕生

香葉会の活動資金のために、学校内に学生のための「購売部」を作りたいという懸案が、新校舎建設プラン当時からあったのですが、五十三年四月から、業者に依託という形で発足しました。一号館三号館学生ホールの中に、お店ができ、学生に利用されています。自動販売機も同様に、売上金の一部が香葉会会計に入金されるようになりました。学校にいらした時は、のぞいてみて下さい。

賛助金寄付者（敬称略）

昨年は、「機関誌」香葉」にかわり、香葉ニュースを会員の皆様にお届けしましたが、本年はやつと、「香葉」八号をお送りすることができません。前年度までに後記の方々から、総額「二十四万二千六百二十五円」のご援助をいただきました。篤く御礼申し上げます。今後とも賛助金のご協力をお願い申し上げます。

五十二年度

- 木戸信子 井上則子 市川若葉 細田喜久子
- 那須和子 米村昭子 二宮敬子 仲村恵理子
- 芝文枝 バブコック恵子 堺典子 中山和子
- 須田広子 片岡純子 西村幸子 田野井君江
- 森谷敦子 小島純子 玉木宮子 山田美穂子
- 馬場俊子 熊谷君代 稲垣愛子 福住恵理子
- 朝野秀子 塚本令子 佐藤晶美 斉田アヤ子
- 川上妙子 内田駒子 菊地和子 近藤はる江
- 斉田実子 向井知子 湖上龍美 清田恵美子
- 稲毛紀子 友尻裕子 御園和夫 長谷部恭子
- 甲斐昌子 奥野節子 辻本裕美 池沢美恵子
- 萩原元子 斎藤末子 加藤徳子 中嶋貴美子
- 松川光代 堀口秀子 田中泰子 落越喜久子
- 小林朝子 勝明子 錦織マサ子 中村はるみ
- 川平洋子 佐野直子 佐藤美穂 長谷川真澄
- 中川あや 鳴沢和美 飯吉玲子 高田しほり
- 佐藤京子 茅昌子 外川富美子 高斎香代子
- 太田正道 松吉郁子 小山恭子 中山恵美子
- 山本桂子 佐藤久子 佃美智子 加藤日出子
- 清水桂子 安藤英子 安念和美 吉岡八重子

五十三年度

- 清水鈴子 高山政子 小島美波 田中寿美子
- 大塚道子 大内昭子 芳垣恂子 中村あい子
- 背山順子 福井英子 地主敏子 興石麻由美
- 都竹道美 岡崎幸恵 藤田功子 名畑由美子
- 納所節子 東井恵子 内田康子 小林美知子
- 西村恵子 平山恵子 牛山郁子 太田さえ子
- 畑中頼子 加藤裕子 高橋玲子 蔵田あけみ
- 押野澄子 寺内雅子 公野保子 高野由美子
- 松本久子 佐藤美代 古郡綾子 松野トシ子
- 安彦潤子 唐沢克子 大島好恵 菅原千代子
- 相吉典子 古城房子 松岡梅子 青木千恵子
- 海老沢さよ子 E113 回卒有志（以上三五名）

- 鈴木悦子 井出加代子 芝文枝 小林美代子
- 菅野明美 菊地和子 酒井通子 長谷美喜子
- 小峰節子 中根悦子 土屋廣子 山田美穂子
- 片岡純子 松野文子 椎名和美 久米とし子
- 金原幸恵 高橋玲子 岩田君江 福島須美子
- 高山政子 秋元美恵子 古島誠 佐々木清唱
- 富沢次江 長島百代 尾崎綾子 伊藤百合子
- 有賀佳子 釜尾愛子 清野朋子 落合多喜子
- 塚本令子 川上妙子 大谷和子 鈴木志津子
- 平井紀枝 岸貞子 佐藤三早江 齋田アヤ子
- 山屋俊子 飯島敏子 佐藤晶美 仲村恵理子
- 門脇陽子 堤典子 幸道佳子 佐々木須美子
- 沢野洋子 須田和子 益川良子 杉浦百合子
- 須田広子 小山章子 飯野政子 石井多恵子
- 藪登喜子 佐野直子 山田洋子 伊藤美恵子
- 小野和子 山本和子 野口洋子 霜島三枝子
- 菊地優子 岩野由美子 矢野昌 福田しほり

- 寺内博美 長尾和子 星野昌子 齋藤理恵子
- 内田清枝 熊谷君代 佐藤久子 中村あい子
- 宮沢和子 須田瑠美 寺西信子 村田紀美子
- 雨宮慶子 原田悦子 田辺洋子 萩原かほる
- 武井陽子 中川あや 増田夫佐 佐藤とみ子
- 寺内雅子 小林朝子 安達明美 大木由紀子
- 関根幸子 足立求子 土屋幸枝 石田不二子
- 石守えみ 重田和子 堀田和子 中村さよ子
- 近藤洋美 石渡嘉子 福井英子 桜木谷洋子
- 清水正子 太田正道 武藤民子 樋渡アキ子
- 徐多恵子 古畑美佐子 渡部勉 中山富士子
- 向山克子 大高悦子 内田啓子 加藤日出子
- 菅原久子 君島瑠美 森岡啓子 錦織マサ子
- 斎田実子 本田道子 原嶋曜子 前田実穂子
- 加藤恵子 野口史乃 安藤恵子 飯塚まり子
- 澄谷亮子 土山典子 小口増枝 宮沢由美子
- 二宮敬子 石井洋子 飯吉玲子 江波戸房子
- 行谷政枝 高斎香代子 小関恂 横部久仁子
- 武藤文子 曾我幸子 岡部孝子 中村はるみ
- 工藤恭子 八巻よう子 加藤薫 中山恵美子
- 松川光代 山崎公代 芹川静子 外川富美子
- 境真由美 金田春美 渋谷貴子 葉若二美子
- 林美菜子 高石和枝 成瀬節子 川口喜代美
- 小山恭子 長井恭子 佐藤洋子 勝田三千代
- 高橋秀子 千田節男 西川圭子 山崎由紀子
- 長原照美 川口和美 地主敏子 小山千恵子
- 遠藤熊治 バブコック恵子 関順子 土山忠
- 安念和美 戸谷洋子 清水鈴子 中野ノブ子
- 山内晴美 小林守信 内田須美子 吉岡多恵子
- 岩木由紀子 福住恵理子（以上六六名）

編集後記

五月の風にまどろんでいる私の前に一冊の雑誌。ほっと息をつくのと同時に果して読んでいただけると不安がよぎります。何度か編集委員の名で顔を出してはきましたが、今回ほど、必死になって「香葉一号」から読んで、字数は？写真は？と考えたことはなかったのです。

でも、「何か手伝うことはない？」という言葉に支えられてやっつと発行に至りました。ここで、皆様にお願いなのですが、最近五年間ぐらいいことは私たちにも感覚的にとらえることができずすけれど、香葉会を支えていらつしやるたぐさんの方々のことを理解することとはむずかしく、「香葉」に何を期待していらつしやるかつかめない状態です。卒業生に興味深く読んでいただいてこそ、「香葉」の存在があると思います。是非、ご意見、ご要望をお寄せ下さい。心よりお待ちしております。

一人静

昨年、この短大を卒業して間もなく香葉の編集委員に加わるようになりました。編集をしていますと、思いもかけず、短大の昔のお話など何うことができたり、又、編集のお仕事の大変さがわかりました。私など何もわからず、編集委員の諸先輩方の後に従って編集をすすめてまいりましたが、さて、今回の「香葉」第八号はいかがでしょう？編集にあたって御協力下さいました方々、ありがとうございます。又、卒業生の皆様も、学生時代の懐かしい思い出、近況報告、御意見や御希望等ございましたら、御遠慮なく編集委員会までお送り下さい。一同お待ちしております。

彼岸花

梅、桜の時期から菖蒲のころまで、学校中が一番忙しい季節の中での編集でした。ご多忙の諸先生から原稿をいただきまして、新しい企画なども取り入れてみました。如何でしたでしょうか？

現在の発展した学校の様子とあわせて、学生時代も懐しく思い出していただければ幸いです。校正をしながら五年後、十年後の短大が、どのような姿になっているのだろうかと考えました。

母子草

今回は新校舎(二号館)が出来上がり、香

葉も何か新しい企画をと考えてみました。先生方に色々な質問をしてお答えをいただきましたとめてみましたがいかがでしたでしょうか。

編集委員も皆さんのご意見を取り入れながら、二年に一回の発行でも届いたらスミからスミまで読みたくなるような、そんな香葉にして行きたいと思います。

ご協力をお願いします。

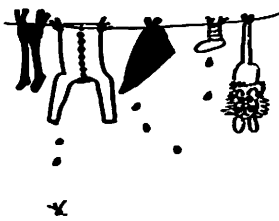
都忘れ

今回の「展望」は、新しい試みとして、いくつかの質問を先生方にお答えいただく形式にしてみました。いかがでしたでしょうか。

空想的な質問や、先生方を悩ませる質問など編集委員一同も、あれこれと悩みながら考え出してみたのですが……御批評、御感想をお寄せいただければ幸いです。

また、グラビアには、新校舎の写真を載せてありますが、一度、是非実際に御覧になっていただきたいと思います。

紫陽花





KANTO GAKUIN WOMEN'S JUNIOR COLLEGE



■英文科 (語学コース・文学コース)

■国文科

■家政科 家政専攻・食物栄養専攻(食物科学コース・栄養科学コース)

■幼児教育科

取得資格：中学校教諭(英語、国語、家庭、保健)、幼稚園教諭、栄養士、保母、司書、司書教諭

関東学院女子短期大学

〒236 横浜市金沢区六浦町4834 ☎045(784)1491(代表)

香葉第8号

昭和54年5月25日印刷・発行

関東学院同窓会・香葉会

代表者 古城 房子

横浜市金沢区六浦町4834 郵便番号236

関東学院女子短期大学内

電話(横浜045)784-1491(代表)

關東学院同窓会・香葉会誌